

平成31(2019)年度 江戸川区立船堀小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	よく考えずすんで学ぶ子 さいごまでやりぬく子	思いやりがある心豊かな子 たくましくじょうぶな子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	確かな学力とあたたかい心、地域を愛し次の時代を担う意識を高くもち、夢や希望を育てる学校 すすんで学び、共に認め合い、めあてをもって粘り強くやり遂げ、未来に向かって歩む児童 深い児童理解のもと、児童の成長を信じ、主体的に考え研鑽し課題意識をもって積極的にかかわる教師
前年度までの学校経営上の 成果と課題	<成果>文化・スポーツの一流の選手をよび、出前授業として各学年で実施したことにより、児童が関心をもち、自分の可能性を考えさせることができた。 <課題>外で遊んでいること、相談体制による改善、エンカレッジルームの理解を充実させる。			

教育委員会 重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた 改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	連携プログラム実施の確認と改善による	教職員が年間2回の授業公開と協議。児童・生徒の交流1回	B	B	・6月に松江第一中学校にて道徳授業の参観を実施し、小中の教員で道徳授業について協議。 ・3学期は中止。	B	・小学校と中学校の連携は、児童生徒の健やかな成長にとって重要なことである。心の教育についてもこれからも充実した取組にしてほしい。	・学校再開後の年間の計画を立て、可能な範囲で実施する。 ・小中の行事が重ならないよう、日程調整する。
	年間を通したたわり「なかよし班」での活動と清掃	行事・清掃などを通して、思いやりの心と行動ができるようになる	遠足、避難訓練(ペア)、作品展(ペア含む)の行事と日常的な清掃活動	行事12回、清掃年間を通して実施。児童保護者アンケート90%以上	A	A	・遠足、清掃活動を実施。 ・清掃活動となかよし班の回数を再検討する必要がある。 ・児童アンケートは95%、保護者アンケートは85%が肯定的。	A	・なかよし班活動は、本校の特色の1つでもあり、子供たちも喜んで参加しているようなので、継続して取り組んでほしい。	・活動の充実に向けて、班長に対しての事前指導を行う。 ・常時活動である清掃活動において、児童の活動の様子を評価し、充実感をもたせる。
	外部人材を活用した体験的な学習の充実	様々な分野の専門家による出前授業の実施により、児童の興味関心を高める。	学年ごとに、または学年を超えて、専門家による広く深い学びを得る機会をつくる	各学年で授業に年間1回以上の実施 児童保護者アンケート90%以上	A	A	鑑賞教室で1～3年影絵。4～6年吹奏楽を実施。各学年の取組で1年安全教育、2年生水生生物、3年は味覚の授業、外国語授業、自転車安全教室、のりすき、歯科、そろばん、ミニサッカー、リコーダー、4年プロ縄跳び、水道キャラバン、下水道、5年お天気、サッカー、SNSルール、6年陸上、薬物乱用防止、車いすバスケ、租税を実施	A	・年間を通して、それぞれの学年の児童の実態に応じた、様々な種類の出前授業を行っていて、児童の成長につながっているものと考えている。将来のことを考えるきっかけになればと思う。	・次年度以降の学年に、学習内容や方法、講師の連絡先等を確実に引き継ぎ、継続的に実施できるようにする。 ・講師との打ち合わせを確実にを行い、学習のねらいに沿った学習が行われるようにする。
		PTA・学校応援団との連携・協働を通じた家庭と地域との相互理解	・学校応援団(保護者を含む)の活用。デイキャンプ、船小まつり、地域の行事参加。	地域・保護者アンケート(図書ボラ、学習引率など)、児童アンケート(地域の行事参加率)	A	B	・生活科や遠足などの学習ボランティアや毎月の図書ボランティアに多数参加していただいた。 ・アンケート、児童80%、保護者85%であった。	A	・本校は、学校に対しての保護者の関心が高く、ボランティアなどにも積極的に参加する人が多いので、引き続き学校に協力してほしい。	・計画的にボランティアを募り、必要人数の確保と保険加入等の事務手続きを確実に進行。 ・地域行事を伝え、参加を促す。
	地域に根差した教育の充実	地域の人材や土地、歴史、地域に出かけ地域の様子を知り、地域の方を招いたり出かけたしたりして地域の人とかかわる中で、ふるさと江戸川(船堀)地域の良さに気付く。	学年応じて、学習の中に位置付ける。安全見守り、地域のまつりなどを知らせ、参加を促す	学年に応じた実施。児童・地域保護者アンケート80%以上	B	B	・1年西船堀公園、2年葛西図書館、地域巡り、3年新川沿い、タワーホール船堀、地域巡りを実施。 ・区わんぱく相撲大会の練習を実施。 ・地域の盆踊り、区民運動会、船堀まつりなどを紹介した。	B	・本校は葛西図書館やタワーホール船堀など、地域の財産が近隣にあるので、学習などで有効に活用してほしい。 ・区わんぱく相撲大会や地域の盆踊り、区民運動会、船堀まつりなど、子供たちにも積極的に参加してほしい。	・地域の見守り活動をして下さっている方へ感謝を表す場を設ける。 ・地域人材や地域行事の情報を、職員全体で共有し、学校と地域が連携して教育活動に取り組めるようにする。
		保護者・地域に向けた教育活動の積極的な発信	学校公開・道徳授業地区公開講座、学校保健委員会、学校ホームページ、学校だより、保護者会等で発信	学校公開授業年4回、学校説明会年2回、道徳・学校保健各1回。地域保護者アンケート80%以上	A	B	・学校公開4、6、9、10、2月に実施。保護者説明会4月実施。学校説明会6月実施。 ・学習作品展の実施。 ・学校ホームページ毎週。学校だより毎月発信	A	・子供の学校での姿に関心が強い保護者が多く、学校公開を楽しみにしている保護者も多い。学校ホームページもよく発信されていて様子がわかる。	・年間を通した計画をもとに、それぞれの会のねらいを明確にして実施し、学年よりの偏りや漏れのないようにする。
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	プログラミング学習、TVの操作を効果的に行う。	毎日、ICT機器を活用する。 ICT研修年3回	B	B	・ICTアシスタントによる教員向けのICT研修を年3回実施。 ・新型TV、パソコンの入れ替えに伴い、研修を実施。	B	・今年度から、プログラミング教育が始まると聞いている。これからの社会を生きる人材を育てる意味で、大切な取組であると思う。	・教科書の改編に伴う、新しいデジタル教科書の活用に向けた研修を実施する。 ・効果的なICT活用方法の共有。
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	児童の特性に応じた指導や支援、適切な対応の向上。	特別支援教育研修年3回以上の実施。個に応じる対応策	A	B	・外部講師による通常の学級における特別支援教育研修の実施。 ・心理士の巡回指導に伴う、特別支援教育コーディネーターの役割が明確になり毎回準備とフィードバックが	B	・特別支援教育が充実していると聞いている。誰もが平等に同じ社会を生きる者として、小学校の時期における教育は大切である。	・校内委員会において、特別支援教育コーディネーターが中心となって、本校の特別支援教育の充実に向け、効果的な支援を検討し実践していく。
		あすなる学級、特別支援教室、副籍交流の理解と啓発	あすなる学級、特別支援教室、副籍交流、エンカレッジルームの理解	あすなる学級の授業公開、特別支援教室の理解研修、保護者会、公開授業、たより、HP等での紹介	B	B	・特別支援教室巡回指導教員による研修会を4月に実施。 ・学校公開時に、あすなる学級の授業も公開。交流学習を推進。	B	・障害を持っている児童と健常の児童がお互いに認め合って学校生活を送ってほしい。差別などがないようにしてほしい。	・児童同士がお互いを理解し、相手のことを考えながら、ともに生活できるように、理解教育の計画に基づき取り組む。
	児童理解による適切な対応	QUテストを生かした学級経営	年2回の実施後の結果分析による学級経営の見直し	要支援群の減少と満足群の向上、児童アンケート90%以上	B	B	・1回目を6月に実施。2回目を11月に実施。 ・満足群が向上した学級と、要支援群が減少した学級を、11月の結果をもとに明らかにした。	B	・児童にとっては、自分が所属するクラスは生活の大部分を占めており、大きな意味をもつので、安心して過ごせる環境にしてほしい。	・QUテストの結果を効率的に集計し、データを蓄積、活用するためのスクールサポートスタッフの活用。 ・QUテストの結果を学級経営に
確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	年間を通して補習を2年生以上実施。1年生は2学期以降実施。	補習、木曜日7時間目実施毎授業で学力向上プランの実施。	B	B	・毎週木曜日7時間目に補習を実施。2月末までに33回実施。 ・授業のユニバーサルデザイン化を推進。	B	・毎週継続して補習を実施することで、学力の向上が図れるため、今後も充実して取り組んでほしい。	・学力向上プランの確実な実施。 ・児童の課題把握をていねいにを行い、自力解決ができるように支援する。	
読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実	図書を活用した授業の実践による、調べ学習の活用	図書館の活用年間12回以上。探究的な活動の実践による			・図書館の活用は、学年により20～36回。 ・調べ学習の成果は、乗り物調べ。図書館新聞。身近な福祉。オリパラ関係等		今後も図書館を利用してほしい。 ・調べ学習コンクールまたは科学展に6年生全員参加しているのは良い。	読書科の年間指導計画に基づいた学習の確実な実施。今年度の学習の成果を踏まえて	

いきいきと学ぶ教育の充実			学習の成果。	動による全員の成果物	B	B	自分で課題を見付け読書を通して情報を整理・分析することで問題解決をする。・調べ学習コンクールや科学展に6年生全員参加。上位表彰数名。	B	・調べ学習も各学年で行っていることは良いと思う。	年度の実施を踏まえて、来年度の計画を作成する。
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	毎週の全校運動遊び	児童アンケート90%以上	A	A	・全校運動遊びを毎週実施し、持久走、長なわ跳び、体づくり運動を取り入れた。 ・児童アンケートの結果は90%であった。 ・体力調査で都平均よりも高い傾向だった。	A	・昔と比べ、子供たちは体を使って元気に遊ぶ機会が減っている中で、学校として体力向上に取り組んでいることはとても良いことだと感じる。継続してほしい。	・体力向上を図るための体育科の学習の充実を図る。 ・休み時間の運動遊びの工夫と充実および運動遊びについての実技研修会を行う。
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	年間計画に基づいたオリパラ教育の実施	毎月のオリパラ給食の実施。オリパラコーナーの展示 オリパラに関わる講話	A	B	・オリパラ給食の一環として、外国の料理と日本の郷土料理を毎月提供し、児童に説明。 ・オリパラコーナーの充実を図った。	A	・オリパラが来年度に実施され、全校で観覧もするので、これまでの取組の総まとめとして、子供たちの意欲をさらに高めてほしい。	・年間指導計画に基づいて、来年度のオリパラ教育の方向性を出し、レガシーとして今後も継続して実施していくものを残す。 ・ボランティア教育、障害者理解教育を充実させる。
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	ALTとの連携による年間計画に沿った授業展開	外国語の授業での積極的な参加95%以上	B	B	・4月から務めていたALTの代わりに、10月から新しいALTに変更となったが、担任と連携しながら学習を進めた。	B	・小学校の英語学習が必修化になったと聞いているので、ALTとともに、充実した学習にしてい	・来年度から英語専科になるため、ALTとの連携を行い、学習の充実を図る。
	確かな学力の向上	わかる・楽しい・もっとやりたい授業の展開 授業のユニバーサルデザイン化(視覚的な提示、わかりやすい発問など)、個に応じる指導の推進	ねらいの明確化、学習スタンダードの徹底、発達段階に応じた指導	算数ベーシックテスト 正答率80% 児童アンケート80%、 保護者アンケート80%	B	B	・毎時間の授業のねらい、まどめを必ず行うように統一した形態で実施した。 ・ワークシートの工夫を行った。 ・児童アンケートは93%だった。	B	・学力の向上は、いつの時代も学校に最も求められているものの1つなので、これからも様々な工夫をして取り組んでほしい。	・わかる授業の実施に向けての研修の充実 ・教室環境の刺激物の軽減、視覚的な提示・ワークシートの工夫の蓄積と共有 ・どの学年、学級でも学習スタンダードを徹底する。
健全育成相談体制の充実	挨拶・言葉遣い	自分から気持ちの良い挨拶、ていねいな言葉遣いができる	自分から気持ちの良い挨拶ができる。言葉遣いが適切	児童保護者アンケート80%以上	B	C	・教室や朝会などの決められた場では行いが、いつでもどこでも誰にでもという段階までは至らず、習慣づいていない。児童アンケートは84%、保護者は59%だった。	B	・町で出会った時などに、あいさつをしてくれる子供がいる。引き続き、あいさつの指導をしてほしい。	・年間を通して、あいさつ運動を計画し、あいさつカードなどの工夫を行う。 ・保護者会などを通して、保護者への啓発を行う。
	思いやりのある児童の育成	相手を尊重する友達への言葉かけや行動ができる	あたたかい言葉や行動ができる	児童アンケート80%以上 教職員による観察	B	B	・相手を無視する行動や馬鹿にする行動が、1学期と比べて「変わらない」と答えた教員が79%、「減った」は21%だった。 ・ふれあい月間において、学校全体で「ありがとうカード」を実施した。	B	・ニュースなどで、いじめの問題が未だに聞こえてくるので、いじめがない温かな雰囲気为学校づくりを引き続き行ってほしい。	・あいさつ運動の実施と働きかけの強化。 ・ふれあい月間の趣旨に基づいた具体的な取組の充実。 ・日常的な正しい言葉遣いの指導。
	全教職員による相談体制	学校の誰にでも相談できることを理解して、困ったときに相談できる体制づくり	相談による問題解決 SC、巡回指導教員、専門員、心理士との連携	巡回指導教員、専門員、心理士、SCの情報共有。面談実施。児童保護者アンケート80%以上	A	B	・スクールカウンセラーへの保護者の相談が増加した。 ・スクールカウンセラーや心理士による児童の観察依頼を行い、多面的な情報により対応を練ることが増加した。	A	・保護者や子供の中には、様々な悩みなどを抱えている場合もあると思うので、誰にでも気軽に相談できる体制づくりをお願いしたい。	・スクールカウンセラーと担任、特別支援教育コーディネーターとの連携を図り、情報の共有を確実にし、実際の指導に生かす。 ・学校全体の相談体制の充実のために、研修を行う。
	いじめ・不登校への対応	いじめ・不登校の未然防止と早期発見、対応	変化をとらえて、学年・組織対応早めの対応。ふれあい月間アンケートの活用	いじめ授業の実施。 SNSルールを用いた指導。ふれあい月間の取組での児童面談にてていねいに聞き取る	B	B	・いじめ授業の実施100%。 ・親切、思いやり、友情、信頼、相互理解、公正、公平など、道徳の授業を通して、いじめについての授業を実施。 ・ふれあいアンケートの結果で「ある」と答えた児童に一人一人詳細を聞き取った。	B	・最近の事件などを見ると、SNSに関わる事例が多く見られるので、ルールを用いた指導を積み重ねてほしい。	・日常生活指導を中心に、思いやりの心もち、他を尊重する心を養う教育を行い、いじめを許さない土壌をつくる。 ・不登校児童への対応を、区の関係機関の活用を含め、複数体制で行う。 ・SNSルールに基づく指導をさらにし、保護者会で家庭へ働きかける。
		スクールカウンセラーなどによる相談体制の充実	必要に応じた対策委員会などの実施	5年生SC全員面談実施。関係機関との連携、対策委員会の即時対応、心のボックス	B	B	・担任との面談に加え専科、栄養士、養護との面談20名希望者に実施。・SCと5年生との全員面談の実施。・児童相談所、子ども家庭支援センター、教育委員会、民生児童委員等との連携による児童の安全確認と被害防止	B	・江戸川区に児童相談所があるので、有効に活用してほしい。 ・家庭に関わることは、民生児童委員との連携を図り、児童の安全を確保してほしい。	・児童相談所や子ども家庭支援センター等の関係諸機関との連携を継続的にし、課題のある児童への対応に有効活用する。 ・何か気が付いた時点で、まずはスクールカウンセラーへつなぐ。
	道徳教育の充実	考える道徳、議論する道徳の実施 奉仕活動の実施	考える道徳、議論する道徳の実施。自分からみんなのために動ける	年間35回実施。年間で道徳ファイルの活用。 教職員による観察	B	B	・校外への奉仕活動は行っていない。 ・言われたらやるが、言われなかったら自分が汚したところをきれいにすることさえ、できない子がいる実態である。 ・年間指導計画に基づき道徳授業を実施。	B	・道徳が教科化されたと聞いている。子供の内面に関わる重要な学習だと思うので、充実した内容にしてい	・学年の実態に応じて、ボランティア活動を計画する。 ・道徳の教科化に基づき、校内での研修等を通して、考える道徳、議論する道徳の授業の推進を行う。
その他	安心安全	危機管理意識をもち、全教職員の協力体制で行う安全な施設	アレルギー対応訓練、心肺蘇生訓練、不審者対応訓練、玄関の施錠。修繕対応	アレルギー事故ゼロ。玄関・窓の無施錠ゼロ。事故の適切対応。素早い修繕	B	C	・登校時に校帽がなかったり、下校で寄り道をしていたり、守られていない面がある。 ・SNSへの取組が少なかった。 ・アレルギー対応で、課題となることが数回あった。	B	・登校時や下校時は学校の目の届かないところだが、安全にも関わることで、子供たちもしっかりと指導してほしい。 ・アレルギー対応は命にも関わることで、学校として徹底した取組をしてほしい。	・それぞれの対応訓練を、より実践的なものに変えていき、確実に実施する。 ・引き渡し訓練の内容について、近年の天候の状況に対応した、より実践的なものに改善する。
	地域との共働・連携	PTA活動、地域への行事への積極的な参加。学校ホームページ、学校応援団の活用	協力や参加による相互理解。情報発信	学校ホームページ毎週更新。行事等参加1回以上協力・参加。応援団活用	A	B	・学校ホームページの更新回数、年度末までおよそ300回更新された。 ・学校応援団としての保護者の保険をかけられるようにPTAと協力体制を設けたことで安心して参加してもらえるようになった。	B	・ホームページは、保護者も地域も注目しているの、引き続き充実を図ってほしい。 ・学校応援団として、地域も学校のために協力していきたいと思うので、何かあれば依頼してほしい。	・学校全体でどのくらいの協力を得る活動があるのかを整理して、来年度は計画的に協力体制を求めようとする。 ・学校ホームページの引き続きの充実を図る。
	働き方改革	会議時間の短縮。校務分掌の標準化。 週計画に基づく教育活動	効率化を図り、児童と向き合う時間を生み出す。	会議45分以内。C4thの活用。 学年・分掌等での分担。	B	B	・会議時間が年度初めに比べ減少。C4thによる連絡が増加した。 ・学期ごとに行事や取組の反省を行い、来年度の計画へ反映させることを徹底。 ・時間外勤務時間が減ることは難しい。	B	・働き方改革は時代の要請なので、学校でも積極的に取り組んでほしい。 ・電話の自動対応や、定時退勤日の設定などの取組は理解できる、こうしたことをさらに増やして元気に子供の教育に携わってほしい。	・効率的な組織編成を行う。・各学年や分掌ごとに、業務時間を減少させるための方策を検討し、実現性のある取組を共有する。 ・各取組の実施案をわかりやすいものにし、会議の時間の短縮につなげる。